

タイトル「還暦からの底力」～歴史・人・旅に学ぶ生き方～(全247ページ)

出版社:講談社現代新書

2020年5月20日 第一刷発行



著者:出口 治明(デグチ ハルアキ)

1948年、三重県に生まれる。京都大学法学部卒。1972年、日本生命相互会社入社。国際業務部長などを経て2000年に退社。同年、ネットライフ企画株式会社を設立、2008年にライフネット生命保険株式会社と社名を改名し、社長に就任する。10年が過ぎた2018年、ライフネット生命保険株式会社の創業者の名を残し立命館 APU 学長に就任、実業界からの異例の転身を図る。

主たる著書に『全世界史講義1、2』(新潮社)、『部下を持ったら必ず読む「任せ方」の教科書』(KADOKAWA)、『教養は児童書で学べ』(光文社新書)、『人類5000年史1』(ちくま新書)など多数ある。

概要:何度読んでも、その都度、明るい気持ちになります。人生 100 年時代をパワフルに行動するための出口流初の人生指南です。人生の楽しみは喜怒哀楽で決まります。こんな時代だからこそ、元気にいきましょう。本書には出口さんのように元気に生きるヒントが満載です。

本書のコンテンツ

はじめに

- 秦の始皇帝は、人類が生んだ最も有能な政治家の一人。先進国の中で世界一の平均寿命を誇る日本は、始皇帝が夢見た不老不死に一番近い国では。
- 「数字・ファクト・ロジック」でとらえ、「年齢フリー」で考えることが、還暦からの底力を発揮するうえで重要なのです。もう一つ重要なのが、健康寿命を延ばすことです。
- これらを実際に行うには具体的にどうすればいいのかを、本書で明らかにしていきましょう。

第1章 社会とどう向き合うか

- この30年間の日本経済の低迷の原因は、人口減でもデフレでもなく、新たな産業社会の牽引役になれるユニコーンがなかなか生まれない事にある。
- ユニコーンを生むキーワードは、女性・ダイバーシティ・高学歴。
- 「飯・風呂・寝る」の生活の低学歴社会から、「人・本・旅」の高学歴社会に切り替えが必要。自分の頭で考えて来なかった日本の大人たち。
- 現在の75歳の体力は昔の65歳に優に匹敵する。人生100年時代の中で考えるべき。
- 人生で大切なのは、何といてもパートナーや気のおけない友人たちと過ごす時間であり、自分が好きなことをする時間です。
- 人間は猪八戒のように、つい怠けるし、異性にはすぐ心が動くし、美味しいものには目がなくていっぱい食べてしまう、そのような存在。「人間、みなチョコボチョコボや」。

第2章 老後の孤独と家族とお金

- 自分が今のポジションで担える部分を受け持ち、世界をより良く変えるために貢献していくしかない。それが次の世代のために取り組むことになる。
- 人間の歴史を見ていると、人間は賢くなく、大した世界経済計画は作れない。要するに、将来何が起こるかは誰にも分らないので、川の流に身を任せて流されていくなかでたどり着いたその場所で、ベストを尽くすことぐらいしかできない
- 年齢フリーに加えて性別フリーにすれば、女性の待遇は引き上げられ、自ずと男女格差は無くなる。
- 日本の大きな問題点の一つは、マネージメントがなっていない事。30年ぐらい前の成功体験に固執している。

第3章 自分への投資と、学び続けるということ

- 80歳でもチャリダーになれるように、年齢に関係なく、自分にとって面白いこと、楽しいことにチャレンジすることが、自分を元気にするという事実を示しています。
- 環境が、あなたの行動にブレーキをかけるのではありません。あなたの行動にブレーキをかけるのは、ただ一つ、あなたの心だけなのです。(小林せかい／日経ウーマン・オブ・ザ・イヤー・受賞スピーチより)
- 新しい世界に入るには、先輩に教を乞い、関係法規を学ぶことからです。

第4章 世界の見方を歴史に学ぶ

- ペリーの黒船来航は、中国マーケットの米英のコスト競争(海上運賃)から。米国は太平洋航路の開発が急務だった。
- 明治維新の成功は、老中首座の阿部正弘のグランドデザインと、大久保利通を中心とした新政府の謙虚さによる。
- 保守主義と革新主義の違いは人間観。しかし、理性に全てを委ねるのは傲慢であると言える。
- 歴史の事実とフィクションは、分けて考える必要がある。例：天皇陛下の田植(明治から)、江戸しぐさ、坂本龍馬(司馬遼太郎の名文による)
- 「知ることは力なり」である。第二次大戦の開戦を判断した指導者や市民は教養を持たず、とんでもない過ちを犯してしまった。
- 米中摩擦は、冷戦の二の舞にならない理由は二つ。(1)米中のたくさんの人的交流、(2)米中の世界秩序に対する利害は一致している。
- これからの世界を牽引する地域は、長期的に見ると、EU、アフリカ、その他人口増が期待される南アジア、南米か。一方、日本は人口減で、この問題について官民をあげて真剣に取り組む必要がある。

第5章 持続可能性の高い社会を子供たちに残すために

- 社会保障と税の一体改革は必要不可欠であり、日本の現状の社会保障は「小負担・中給付」。
- 日本の中世では、優れたリーダーは、経済成長に貢献した平清盛、足利義満、織田信長。
- 世界では、モンゴル帝国の第5代カアンのカビライは、グローバリゼーションを実現させ、経済成長を果たした。一方、中国では有名な諸葛孔明は、勝てない戦争に国を引っ張り込み、最低のリーダーでは。
- 迷ったらやる、迷ったら買う、迷ったら行く、「7~8割方、これは徳だ」と思ったら、迷わずに決めたり、行動する。

「おわりに」

- 「ヤング・サポーター・オール」から、「オール・サポーター・オール」へ。すなわち、年齢で優遇するのをやめ、困っているかどうかで優遇する人を決める社会に変わるべきでは。

以上